

平成 22 年度 第 5 回 朝日地域審議会

会議録（概要）

期日：平成 23 年 2 月 10 日

場所：鶴岡市朝日庁舎 大会議室

平成 22 年度 第 5 回 朝日地域審議会 会議録

○日時：平成 23 年 2 月 10 日（木） 9 時 30 分から 11 時 22 分まで

○会場：鶴岡市朝日庁舎 4 階 大会議室

○出席者：（委員）佐藤正、齋藤健一、松本壽太、宮崎康史、佐藤宥男、佐藤芳彌、清野義次、  
佐藤清、大滝清策、井上時夫、菅原孫一、今野めぐみ

（12 名/20 名）

（市側【庁舎】）朝日庁舎支所長、各担当課長、総務課職員

（市側【本所】）教育次長、学校教育課長、企画調整課係長、  
市民生活課次長、市民生活課主幹、市民生活課係長、  
地域活性化室室長、地域活性化室係長、調整課課長

1. 開会
2. あいさつ
3. 説明及び意見交換

学校適正配置検討作業について

【意見】

意見（佐藤正）

机上で適正規模を決めるのは簡単だが、小学校の廃止は市の基本計画でも触れているが「地域住民のコミュニティの中核を担う」とあるように大きな問題を抱えている。現段階で自治会として容認できるものではない。ぎりぎりまで存続してほしいと願っている。また、子供の減少は鶴岡市だけでなく全国的な問題であるので、効率重視のやり方では将来行き詰ると思う。学校教育法にも載っているが、ここで載っているのは義務教育のための設置義務だと私は思うし、子供が減ったときの統廃合のための法律ではないと思っている。いろいろメリット、デメリットが上げられていたが、インフルエンザによる学校閉鎖が少ないのも小規模校のメリットだと思う。また、かなりの費用をかけて耐震化工事も行っており、まだまだ使える立派な校舎を廃校にするというのは、財政的にかなりの無駄遣いと言えると思う。

また、質問だが、こうした手法は学区を広域化するだけの話で、小規模校のデメリットはやむを得ないと思うし、メリットをどう生かすかが必要だと思うがどうか。

統廃合以外に過疎地域の学校を存続させるための検討はされたのか。例えば山村留学などの検討はされたのか。

市の総合計画の目的の中に適正な環境整備をうたっているわけだが、4 月から予定されている朝日給食センターの民間委託や炊飯廃止は総合計画に逆行していないのか。

学区再編によって子供が長い時間スクールバスで通学することになるが、それが子供にとって望ましい教育環境かといえば決してそうではないと思うので、さらなる検討を望む。

回答（学校教育課長）

一点目について。先日朝日大泉小を拝見させてもらったが、生徒も先生も一生懸命がんばっていてすばらしい姿を見てきた。反面、職員の数が少ないためなかなか手が回らない面も見せてもらった。学校としては非常にすばらしいと思うが、望ましい教育環境を考えたときに、メリットよりもデメリットをどうやったら解決できるのかを一つずつ考えていきたいと思っている。

二点目について。統廃合以外の方法についてだが、山村留学を紹介いただいたが、市内の学校から生徒数の少ない学校にであれば通学してもよいという「特認校」という制度も札幌市にはある。札幌市と本市の大きな違いは交通手段の有無である。通学時、札幌であれば電車があるが本市はバスを考えたときに本数や利便性からすると特認校も難しいと検討させていただいている。

三点目について。適正な環境整備ということで、先日朝日大泉小を見学した際に通学時間の課題も伺ってきた。これから統合問題を考えたときに児童の通学時間が小学校であまり長い時間を割くようだと疲労及び生活リズムにも影響を与えることになるため、通学時間の短縮について検討したいと思うし、なにより子供たちの安全を第一に考えていきたい。

#### 意見（佐藤正）

統廃合の理由には財政的な理由も含まれていると思うが、先ほども述べたとおりデメリットは時代の流れでもあるのである程度は仕方の無いことである。デメリットは受け入れ、その中で出来る限り存続させたいというのが自治会としての願いのため、そこを汲んで頂きたい。交通手段の話があったが、市内から通学するのは充分可能であるため、それを理由にしてほしくはない。給食センターの民営化についての解答は。

#### 回答（教育次長）

給食センターの民間委託についてだが、基本的に市全体の給食センターを完全委託でなく、できるところから切り替えていきたいという考え方は以前から話していたが、今回の朝日、櫛引地域の給食の調理部門の部分的な委託となる。炊飯については検討した結果、これまでどおり給食センターで継続実施とする予定である。

#### 意見（大滝清策）

私は統合に賛成である。私の孫も朝日大泉小に通っているが、将来のことを考えると子供が入ってこない年もあり、クラブ活動なども小規模で大人数の中に入ることがなくて心配である。子供たちから見れば、規模の大きいところに行かないとどうしても伸びていかないと思う。勉強だけでなく、友人と協力したりする事が非常に大切だと思う。学校は確かに耐震化工事などを行っているが、それよりも大事なのは子供の気持ちが将来に渡ってどのように伸びていくかが一番大切だと思う。

#### 意見（清野義次）

大網地域で高齢者と小学校のつながりは昔から行事を協力して行ったりと関わりがあるが、なにせ生徒が15人と少ない。地域の保護者も少人数であることが心配なようである。今現在大網小の一人ひとりの実力はあると思うが、中学校やもっと大きいところに行つたときに発揮できるかはなんとも言えないところかと思う。地域としては少しでも長く存続させてもらいたいという希望はあるようである。

#### 意見（井上時夫）

今、生徒の保護者、父兄がどんなことを考えているか聞いているが、まだ本当の話が出てこないようだ。この中間報告が広報にも掲載されたことから、以前より父兄から話が出てくるのではないかと思っている。私自身は小学校を中心に地域活動も行ってきたので無くなったら寂しいと思うが、子供たちのことを考えれば、せめてもう少し長く学校が存続してもらえばありがたいと思う。

#### 意見（佐藤清）

P T Aの中ではまだ統廃合について話題に上っていないため個人的に考えたことだが、統廃合について朝日地域で田麦俣分校が大網小学校と統合になった経過がある。一概に比較は難しいと思うが、田麦俣分校が無くなったことで地域コミュニティがどうなったのかを検証する必要があると思う。また、資料を見ても今後より少子化傾向となっていくため、地域住民や保護者からも直接意見を交わす場を設け、方向性を決めるべきだと思う。

#### 意見（今野めぐみ）

スポーツ少年団活動では、児童数の減少で活動ができにくくなっている現状である。団登録するにも人数が足りず、昨年度で大泉の少年団は無くなり、大網の児童もだが、朝日に一緒に入って活動している。このような現状を考えると、統合が妥当と思う反面、無くなっていくのも寂しいと思うし、大泉や大網の児童は引込み思案ということもなく優秀な子供も多いと思うので、小規模校のデメリットは仕方ない面もあるが優秀な子供も育てていることもあり、どうすべきか難しい問題だと思う。実際中学校の部活動も人数が足りず、大会に出場するときも容易でないという話を聞くし、小学校だけの問題ではないと感じている。

#### 意見（佐藤宥男）

個々の事例に目を向けると、適正配置という全体的な捉え方はできないと思う。一般的に小規模のほうがよいとか、大規模のほうがよいという話はできないと思うし、統合した場合も廃校の跡地利用や、学校があったときの地域の中での役割が無くなってからどのように残すのが今後考えていく必要があるかと思う。

#### 意見（齋藤健一）

学校適正化の検討の進捗状況が今回明らかとなり、驚いているところである。皆さんの意見をもっと伺った後で意見を述べたい。

#### 意見（菅原孫一）

大針地区も過去に分校が統合したりプールが無くなったが、当時自治会として地域が廃れることや通学距離が長くなることから陳情を様々行い、いろいろな問題を乗り越えて大針分校が統合され、無くなった後確かに地域はさびれ、プールや農協支所までなくなったが、子供たちがどうなったかという何とも問題なかった。親からも「だから統合すると駄目だったんだ」という人もいなかったし、地域の自治会の方からも「統合したから子供の出来が悪くなった」という話も無かった。統合して子供にとってメリットは多いと思うし、デメリットについては以外と問題にならないのではと、過去に経験したことから考えられ、そんなに心配することでも無いと思う。

#### 意見（松本壽太）

以前からみると、結婚する人が減り、子供が減り、生活基盤が人口減で弱くなっていることが全国的な状況だが、そういう時だからこそ教育は非常に重要だと思う。今の環境を守るのがよいのか、将来子供にどうなってもらいたいのがよいのかが大きな問題だと感じている。

意見（宮崎康史）

統合は当然だと思っていたが、皆さんの意見を聞きながら、デメリットは仕方ないので魅力ある学校づくりをしたほうがよいという考えもあるが、子供の事を考えると大規模の学校に通学させたほうがよいのか、なんとも言えない。その学校の地域住民の意見を聞く場を設け、その意見を尊重してもらいたい。

回答（学校教育課長）

小学校区単位では難しいが、全市の中学校区を対象に地域住民の意見を聞く場を作りたいと思う。是非PTAにも協力してほしい。

跡地、校舎利用についてだが、有効活用に努めるよう庁内の各部局と話し合いながら進めたいと思う。いずれにせよ、一方的に方針を押し付ける訳ではなく、地域の検討委員会の中で子供にとってどうするのが一番よいのか地域庁舎にも協力してもらいながら検討を進めていきたいと思う。今回の意見についても、今後検討委員会の中でお知らせし、活かしていきたいと思う。

#### 4 報告

(1) 平成 23 年度朝日庁舎の取り組み方針について

##### 【質問・意見】

意見（佐藤正）

いろいろな機会に言っているが、実態調査は歓迎だがほとんどの課題は見えてはいるはず。山間地の集落がまっているのは、いかにその施策、対策を実行してほしいということです。いつまでたっても調査、研究、実態調査では困ると、機会があるたびに言っている。ぜひ 23 年度には実行してもらわないと集落の維持がいつまで出来るかわからない。早期に着手してほしい。

回答（支所長）

これまで調査研究を行い、十分に課題は分かったと思うので、23 年度は次の段階に進みたいと考えている。よろしく願いたい。

#### 5 その他

(1) 来年度の朝日地域審議会の進め方について

説明（地域活性化室長）

地域審議会全体の考え方として、委員の任期は来年 6 月までという実質 2 ヶ年度の実施となっている。基本的に行政課題や地域課題について議論してもらおうと、今年度様々な地域課題を出してもらい検討してもらっているということが一点で、総合計画や過疎自立促進計画、学校再編などの大きな行政課題についても委員からの意見を聞くという二点を来年度も考えている。

行政課題については地域を見て、今年と同様に大きな行政課題について委員の皆さんに報告し検討していただくように会を数回開催したいと思うし、地域課題については地域審議会で独自に協議テーマを決めてもらい検討していただきたい。他の地域の審議会を見るとテーマについて結論が出ず、来年度も引き続き同じテーマについて検討するという地域も 4 地域ある。来年度の朝日地域のテーマについても検討していただきたい。

意見（佐藤正）

今年度は二つのテーマで検討してきたが、絞りすぎてやりにくい面もあった。その点をもっと配慮し

てもらえれば。

意見（清野義次）

今年提言したものについて、これまで進捗状況も報告してもらいながら進めていければよいと思う。

意見（大滝清策）

地域の実態調査が重要だと思う。地域に職員が入って話し合っただけで地域資源や地域課題を見つけるよう、来年度ぜひ行ってもらいたい。

質問（松本壽太）

さきほどの説明で6地域のうち4地域はまだ継続課題に取り組むとのことだったが、継続課題となったテーマとはなにか。

回答（地域活性化室長）

鶴岡地域は地域コミュニティの問題、産業経済分野の連携の問題。藤島地域はそれぞれの分野の後継者の問題。羽黒地域は観光をどうしていくか。櫛引地域は婚活問題で、一定の提言が得られた。温海地域は後継者育成の問題と、日浴道を活用した地域活性化をどうしていくかという状況であった。

委員への質問（総務課長）

今年度分科会を二つに分けたが、どのように受け止めているか。分科会での委員の発言の機会もあったと思うが。

意見（菅原孫市）

テーマが互いに関係のあることなので、単独に審議して結論が出るような簡単な問題ではなかった。テーマのとり方にもよるかと思うが、それぞれの問題が関連しているため、分科会の意見が総合的に入ってきたほうがよいと感じた。

意見（菅原清）

委員の構成に変更はないのか。女性の参加がもっと多くてもよいと思うが。

回答（地域活性化室長）

基本的に任期は現在の委員に務めて頂きたいと思うし、団体の代表として参加されている方はその団体からの選出によって変更されることも考えられるが、基本的にこのメンバーという考え方である。

(2) その他 特になし

6. 閉会